

青少年奉仕座談会／第 1 回（2017 年 8 月 21 日）

地区青少年奉仕委員長を座長として、インターアクター、ローターアクター、ROTEX（青少年交換プログラム帰国者／大学生）が参加して行いました。座談会の趣旨は「クロスプロモーション」（青少年奉仕各セクターの相互理解、交流とともに、連携により奉仕を行うこと）のきっかけづくりです。

座談会の流れは、「1. 各セクターの紹介（相互理解のために）」、「2. これから一緒に行ってみたい奉仕活動」、「3. 一緒に活動する上での課題は？」、「4. まとめ（本日の感想とこれからについて）」となっています。

なお、出席者は下記のとおりです。

大西 太郎 地区青少年奉仕委員長

大沢 隼 関東第一高等学校インターアクトクラブ会長

小笠原 聡 地区ローターアクト代表

加藤 光 R O T E X 委員長



1. 各セクターの紹介（相互理解のために）

小笠原 本日の青少年奉仕座談会は、相互の理解と、ロータリーファミリーとして垣根を越えた活動のきっかけづくりをゴールとします。よろしくお願ひします。まずは、それぞれどういう活動をしてきたか、どういう活動に興味があるかを聴いていきます。

ちなみに、ローターアクトを聴いたことがありますか？

大沢 本年 4 月の在京／地区青少年奉仕包括成果発表会（以下、「包括成果発表会」）で初めて聴きました。ためになる例会を開催していることを知りました。とはいえ、いまいちわかっていません。

加藤 正直、わかっていないです。18 から 30 歳までで構成されていて、ROTEX より自由に活動し、盛り上がっているということぐらいです。

小笠原 ローターアクトは主体的に活動しています。インターアクトの卒業生の受け皿として誕生しました。ロータリアンとなるまでの間つなぎでもあります。18 から 30 歳まで、大学生と社会人がメンバーになって奉仕活動を行っています。第一に、専門能力の育成です。ロータリアンから

会社経営について伺うことができます。マナー研修などスキルアップを目的とした例会も開催しています。第二は、社会奉仕です。地域の清掃活動、地域のお祭りのお手伝い、まちおこしなどの地域貢献をしています。現在、当地区には 15 クラブがあります。それぞれ地域に根差した活動をしています。第三に、他地区のローターアクターとの交流を活発に行っています。全国の 33 地区（編集者注。ローターアクトは 33 地区です）にて、ローターアクトが提唱されており、約 3000 人の会員がいます。ローターアクトは全国研修会を毎年開催しており、400 人ぐらいが参加して、交流を行っています。この全国研修会もローターアクトが主導して運営しています。

加藤 ローターアクトは地区を越えているのですね。すごいです。

小笠原 出合いが面白さの一つです。

大西 インターアクトとローターアクトには共通しているところがありますね。しかし、ROTEX だけ少し違うようです。仲間同士の友好が主体になっていますね。

加藤 ROTEXは青少年交換プログラムです。5年間をかけます。最初の1年間は派遣予定学生として、次の1年間は派遣学生として、異文化交流を目的として海外に派遣されます。その後の3年間はROTEXとして活動します。来日学生、派遣予定学生のサポートを行います。浅草など日本文化を知ってもらふフィールドトリップや、平和学習を行うジャパンツアーなどの運営をしています。ジャパンツアーは、京都、奈良など東京以外の日本を知ってもらふ機会でもあります。昨日までの10日間は、サマーキャンプが行われていました。来日学生の日本語研修と日本文化理解を目的としています。こちらのお手伝いもしています。

小笠原 3年間も来日学生と派遣予定学生のお世話をしているのですか。

加藤 そうです。

小笠原 長いですね！

加藤 青少年交換プログラムは国境を越えた友だちができます。これは、派遣学生がそれぞれ別々の国に行くからです。当地区は毎年10人を派遣しています。毎年10ヵ国ずつ友だちが増えることになります。私は、タイに派遣されました。タイのことはぜんぜん知りませんでした。しかし、1年間、タイに住んでみて、いろいろなことが見えてきました。タイは日本を好きでいれくれること、アジアの成長を実感できたことです。そして、タイ人の友だちができました。

大西 最近、北朝鮮の問題で物騒になっています。しかし、今のお話を聞けば、日本がタイを攻撃できるかというできないです。これは、海外の友だちを作ることが平和につながるということです。

小笠原 先ほどのジャパンツアーですが、ROTEXが企画や運営も主導しているのでしょうか。

加藤 そうです。

小笠原 予算もですか。

加藤 そうです。大学生が自分たちで企画や運営をしています。とても楽しいです。みんな意見が違います。だからこそ、アイデアが生まれます。

小笠原 派遣先のROTEXもジャパンツアーのようなことを行っているのですか？

加藤 海外では行われていないようです。そもそも、ROTEXとローターアクトの違いがわからない方が多いようです。ROTEXがいなくても、青少年交換プログラムは行うことができるということもあります。しかし、当地区はROTEXによるサポートが充実しています。当地区の良いところではないでしょうか。

小笠原 つまり、地区によるということでしょうか。

加藤 ジャパンツアーは当地区だけのようです。

小笠原 ありがとうございます。それでは、インターアクトのお話しをお聴きします。



大沢 インターアクトは奉仕活動が中心です。江戸川区のお祭りのお手伝いなど地域の奉仕活動です。

小笠原 奉仕活動に興味を持つきっかけ、インターアクトに入ったきっかけを教えてください。

I A インターアクトに入ったきっかけは・・・。
高校入学した時、初めは合唱部の勧誘を受けていました。しかし、インターアクトクラブの前会長の活動紹介を聴いて、人の役に立てる部活を選ぶことにしました。元々、ポイ捨てが嫌いです。江戸川区はポイ捨てが多いところですよ。中学生の時は、奉仕的な委員会に入って、地域の清掃活動をしていました。

大西 この若さで奉仕に目覚めていて、すごい！
高校生の時に、人の役に立ちたいとは思っていませんでした。

小笠原 高校生の時は、彼女をつくることしか考えていませんでした。

大沢 伯母が福祉の仕事をしていたので、奉仕活動に興味を持っていました。そこで、インターアクトクラブに入会しました。

大西 すごい！ 尊敬できます。奉仕活動について気付くのは早いほうが良いですね。

小笠原 インターアクトクラブの会長になったきっかけを教えてください。

大沢 僕が入会した当時、既に会員減少によりクラブは壊滅的な状況でした。同学年の会員も文化祭後、出席がなくなりました。それでも、僕はボランティアを続けました。そういう状況のところ、会長就任を頼まれました。

加藤 周囲から認められたから会長になったということですね。

大西 ROTEX 委員長も周囲から認められて就任しますね。ローターアクトだけは、最近、異なりますね。前々年度、前年度は、立候補者が複数いて代表選を行いました。

小笠原 続いて、ROTEX 委員長になったきっかけを教えてください。

加藤 まず、青少年交換プログラムの派遣学生に

なったきっかけは、中学高校一貫校でさらに大学にも受験無しで進学できました。高校生の時に、何かしなくてはと考えると、海外に留学をすることになりました。派遣予定学生の中に、所属していた水泳部の成績が上がったことで、派遣前は消極的になっていました。しかし、タイに派遣されてみたら、異文化コミュニケーションを体験することができました。発見がたくさんあり、成長ができました。そこで、帰国してから、ROTEX のお手伝いすることにしました。ROTEX にはすごいメンバーがいます。そこで、ROTEX に所属したいと考えました。とはいえ、ROTEX 委員長になりたいとは思っていませんでした。そのためのスキルもありませんでした。私の同期はみな優秀でした。ROTEX 委員長候補も 4 人ぐらいいます。しかし、その 4 人とも ROTEX 委員長になることには消極的でした。それでも、ROTEX 委員長は決めなくてはなりません。そこで、私は手を挙げました。同期からも「どうぞよろしく」となりました。私は大学では経営学部にも所属しています。ROTEX は「組織論」の実践の勉強ができます。勉強の成果をメンバーのモチベーションを上げることに活かしたいと考えています。

小笠原 すごいですね！

大沢 共感を持てます。

大西 新世代奉仕部門（現青少年奉仕部門）ができるまでは、青少年交換は国際奉仕部門、インターアクト・ローターアクトは社会奉仕部門でした。2010年、国際ロータリーの規定審議会でも新世代奉仕部門ができ、インターアクト、ローターアクト、青少年交換を包括することになりました。当地区は、さらに職場体験・インターンシップも包括しています。地区青少年奉仕委員会は、被包括委員会のサポートと調整をするためにあります。目指すところは世界の平和と青少年の育成です。私は元々、地区青少年交換委員会にも所属していました。けっこう長い期間です。地区青少年交換委員長も務めました。そこで、若者と付き合っ、成長する姿を見てきました。ロータリアンもまたロータリーを通じて一生をかけて成長していきます。

青少年交換は来日学生、派遣予定学生、ROTEXと一緒に勉強します。地区青少年交換委員長の最終挨拶にて、「来日学生、派遣予定学生、ROTEXの成長の姿を見てきましたが、自分自身が一番成長しました」とお話しさせていただきました。さらに、「私が成長したと思う人は手を挙げて」と言ったら、みんなが手を挙げてくれました。一緒に成長できる機会であり、やりがいがあります。年度の初めは緊張していても、1年後には立派になっています。地区青少年交換委員長の時のROTEX委員長は、みんなを引っ張っていくタイプではありませんでした。年度初めは挨拶もやっとでした。名前を言うだけで、真っ赤になっていました。だからこそ、みんなで助けようという雰囲気になり、立派な年度になりました。そのROTEX委員長は、1年後、立派な挨拶ができるようになりました。ロータリーの奉仕は意識を高めることができます。地区青少年交換委員長を務めましたが、立候補ではありません。推薦をいただいた時に、自分の成長ためになるから引き受けました。だからこそ、ロータリーファミリーとして何かしたいです。インターアクト、ローターアクト、青少年交換がばらばらはもったいないです。

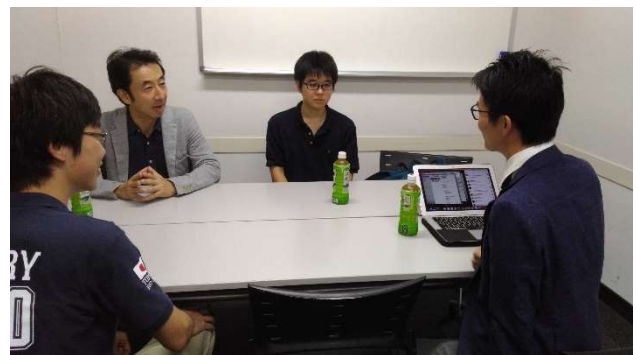
小笠原 青少年奉仕部門があるから、インターアクト、ローターアクト、青少年交換の一体感が生まれているわけですね。

大西 先日、全国インターアクト研究会に出席してきました。インターアクト、ローターアクト、青少年交換によるクロスプロモーションの事例がたくさん発表されていました。当地区も力を入れています。

小笠原 自己紹介をします。ローターアクトクラブに入会したのは、大学時代の先輩から誘われたからです。大学生卒業後、フリーターとなり、半年ほど就職し、その後、今の仕事を立ち上げて、自営をしています。しっかりとした組織で働いたことがありませんでした。また、業界の知り合いばかりでした。仕事で悩むこと多くなっていたタイミングで入会しました。3～4人の組織ではなく、何百人がいる組織で自分に何ができるか、試してみたいと考えました。入会后、未熟さを感じつつ、

課題に対して何かできるのではないかと考えました。そこで、地区ローターアクト代表に立候補しました。代表となりましたが、日々、課題だけです。周囲に迷惑をかけることもあります。代表としての発言が溝を生むことも経験しました。代表になってみて、社会性を身につけるのが難しいことに気付きました。日々、勉強しています。これがモチベーションになっています。クロスプロモーションはロータリーの魅力です。ロータリーは世代が異なっても対等な立場で奉仕ができます。失敗をしても認めてくれます。当地区のローターアクトは会員増強により、人数が増え、横のつながりができています。いろいろな個性があります。クロスプロモーションで世代を越えた奉仕をしてみたいです。

大沢 包括成果発表会で行われたグループ・ディスカッションでロータリアンと意見交換させていただくことができました。とても貴重な機会でした。近隣の愛国学園インターアクトクラブでは提唱クラブ（東京東江戸川ロータリークラブ）のロータリアンと普段から交流があります。関東第一インターアクトクラブも提唱クラブ（東京江戸川ロータリークラブ）のロータリアンともっと交流をしたいです。ロータリアンとの交流はインターアクターの経験になります。インターアクトの奉仕活動にも幅が広がるはずですよ。



2. これから一緒に行ってみたい奉仕活動

小笠原 それでは、テーマを替えまして、これから一緒にやってみたい奉仕活動をお話いただけますか？ まずは、インターアクターからお願いします。

大沢 清掃活動をみんなでやってみたい 荒川は、昔きれいだったそうです。しかし今は汚いです。ぜひ、みんなできれいにしたいです。この活動は意識改革につながります。また、地域の良いところも見つかります。

小笠原 ロータリアンやローターアクトと一緒にということですね。

大沢 はい。一緒にボランティアをしたいです。仲良くなることができます。

加藤 以前、インターアクトクラブ所属の ROTEX もいました。インターアクトクラブで奉仕活動をしているのを聞いたことがあります。ROTEX には来日学生がいます。しかし、来日学生とボランティアをしていませんでした。これからはしたいです。

大西 以前は、東京清瀬ロータリークラブ(解散)が、インターアクト、ローターアクト、青少年交換の合同にて芋堀りと芋煮会、地域にある彫刻の清掃活動を主宰していました。

加藤 ROTEX、来日学生と、インターアクト、ローターアクトとで関わりを持ちたいです。ぜひ一緒にボランティア活動をしたいです。国によってはпой捨てOKの国もあります。異文化理解にもなります。

大沢 ぜひよろしくをお願いします。

小笠原 大沢くんの清掃活動への思いはすごいですね。

大沢 ポイ捨ては僕の親の世代の負の遺産です。解決したいです。もっと清掃活動をしたいです。とはいえ、この春、1年生が入会してくれなかったら、インターアクトクラブは廃部でした。ですので、入会募集のための誘い文句が欲しいです。インターアクトの名前を認知させたいです。清掃活動をすれば、知ってもらえるはずですよ。

小笠原 先日開催された、地区インターアクト年

次大会では、インターアクトクラブの会員は多いイメージでした。

大沢 チラシを作って、1年生へ配布したり、説明したりしました。同級生はボランティアに消極的です。時間はあるはずなのにです。ちなみに、担任の先生はフェアトレードに関心がある方です。インターアクトクラブの行う募金に協力してくれています。

小笠原 ローターアクトも会員募集は難しいです。たいへんですね。

加藤 ROTEX の場合も、ROTEX 以外が忙しくなって、来なくなってしまうこともあります。

小笠原 関東第一インターアクトクラブの現在の会員数は何人ですか。

大沢 12人です。

大西 すごいですね！

小笠原 4月に部活動紹介などで勧誘しているのでしょうか。

大沢 インターアクトクラブの説明会をしたら、積極的に来てくれました。この説明を聞いて、入会したというコメントをいただいています。地区インターアクト年次大会が終わったので、奉仕活動に力を入れていきたいです。たとえば、子ども食堂です。虐待を受けたり、孤立している子どもたちに、一緒に食事する機会を設けています。インターアクトみんなで子ども食堂を認知してもらう活動をしています。貧困家庭、母子家庭の負担を少なくできる活動です。

小笠原 包括成果発表会も大切ですが、身体と一緒に動かすのも大切ですね。一緒にどうことができるのでしょうか。

大西 奉仕活動以外でも、運動会でも良いですね。一緒に遊ぶ機会です。

加藤 ROTEXは、運動会、クリスマス会に力を入れています。運動会は多地区合同にて、前年度で2回目になります。大学生だと、運動会がないので楽しんでいます。

小笠原 前年度、グアムで全国ローターアクト研究会が開催されました。そこで、ローターアクターによるファンドレイジングの発表がありました。イベントを開催し、参加費を徴収、その余剰金を寄付に回すというものです。みんなが楽しめるイベントを企画して、ファンドレイジングをやってみたいです。参加人数が増えれば、寄付金も大きくすることができます。なお、来月、第2750地区と合同でローターアクト運動会を開催します。

加藤 来日学生も交えて平和ディスカッションをやりたいです。来日学生はいろいろな考えを持っています。また、高校生の考える平和を知りたいです。大学生が思い付かない発想があるはずです。

大沢 地区インター年次大会の討論会で、平和についてディスカッションをしました。

加藤
まぜていただき良かったです。

大沢 戦争を無くすには、他人を思いやる力、共感能力が必要という意見が出ました。みんな笑顔で感謝することも大切です。しかし、戦争が無くなると、向上心が無くなるかもしれない。向上心が無くなれば、戦争が無くても、やはり世界は滅亡するのではないかという意見も出ました。そこで、アンケートをしましたが、戦争が無いのであれば、向上心が無くなることで世界が滅亡するほうが良いというほうが多数でした。あるいは、一時でも平和が良いという意見もありました。これは、世界は恒久的な平和にはならないという認識からです。さらに、大学生とディスカッションしてみたいです。

大西 答えのない答えを考えることが大切ですね。

大沢 はい。考えることが大切です。ロータリアンと異なる答えになることがあります。たとえば、

6月に開催したリーダーズキャンプでは、死刑制度についてディスカッションをしました。インターアクトは死刑制度に賛成。ロータリアンは反対でした。学ぶことがあります。



3. 一緒に活動する上での課題は？

小笠原 クロスプロモーションでクリアすべき課題は何でしょうか。

大西 時間の壁ですね。インターアクトとローターアクトの合同例会は簡単ではなさそうです。

小笠原 インターアクターと一緒に活動となると、学校の中となるのでしょうか。また、インターアクターへ直接のアプローチはできません。きっかけをどうすれば良いのでしょうか。

大西 ロータリーの活動はカタチができると回ります。まずは、ロータリアンを上手に利用してはいかがでしょうか。青少年奉仕にはリスクが生じます。こういったリスクについて、ロータリアンには経験値があります。社会的ルールも知っています。相談して欲しいです。とはいえ、ロータリアンが関与し過ぎると良くないですが。

小笠原 かしこまりました。クロスプロモーションについては、まずは大西さんへご相談します。それでは、座談会をまとめます。感想とこれからについてお願いします。

4. まとめ（本日の感想とこれからについて）

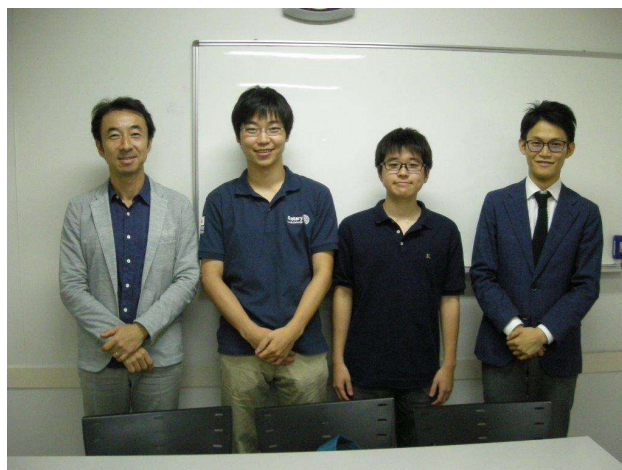
加藤 包括成果発表会は、インターアクター、ローターアクターとの交流の機会になっています。現在、ROTEXからローターアクターとなる人が増えています。しかし、それ以外の、その後へのつながりにはなっていないかもしれません。ROTEX委員長の時に、この座談会に出席できて良かったです。海外への派遣により、たくさんのことを学ぶことができます。成長を喜んでもらえます。さらに、大学生となった、今度は来日学生や派遣予定学生の成長を気付くことができます。ロータリーから貴重な時間をいただいています。平和ディスカッション、運動会などをぜひ一緒に開催したいです。

小笠原 インターアクト、ROTEXがどういう活動しているか初めて理解できました。包括成果発表会では「一緒に活動できたら良いね」が、毎年続いています。毎年4月や5月の開催のため、その後、すぐに入れ替えとなってしまいうからです。本年度は、クロスプロモーションとして何ができるかを束ねる立場にあると自覚しました。お会いする機会を増やすことだと考えます。まずはお会いして、お話しをする。そういう場を定期的に作ります。メーリングリストなどお互いの情報を知る手段も欲しいです。そこから、具体化していきたいです。また、次年度への伝達も確実にいきます。

大沢 今まではインターアクターだけで活動するだけでした。ローターアクターやROTEXと接する機会がありませんでした。ですので、今日の座談会は新鮮でした。みんなで活動していく課題もわかりました。ローターアクターには包括成果発表会にて初めてお会い、お話しできましたが、ちゃらんぼらんなイメージでした。「こんなもんか」という感じでした（編集者注。そのローターアクターは熱心に活動しています。たまたま相性が良くなかったようです）。しかし、今日の座談会でお話し、イメージが打って変わりました。また、提唱クラブとの接点がほとんどありません。今日の座談会で、ロータリアンのことも知ることができました。このことは、後輩につなげていきたいです。

大西 とても素晴らしい座談会になりました。た

った1時間半ですが、相互の気付きを得ることができました。相互の見方も変わりました。これがないと、クロスプロモーションに行きつきません。初めは遊び感覚でも、そこから視野を広げて、成長し、意識を高めて、奉仕をしていく。これがロータリーの一面でもあります。そして、常にアップデートしていく、書き換えていくことが成長の証拠となります。地区インターアクト年次大会にてご挨拶した際に、次の言葉を贈りました。「目標を高く掲げて、小さく小さく行動していく」です。まずは、インターアクト、ローターアクト、ROTEXの連絡手段を調整します。小笠原くん、加藤くん、大沢くんの3人で、本年度、クロスプロモーションの事業に取り組んで欲しいです。次回の座談会も組んでみたいと考えています。次につながるための第1回となりました。貴重な機会をありがとうございました。3人とも、がんばってください。私もがんばります。



以上